

(農)にここにこファーム新庄「たまぷろチーム」でタマネギの拠点産地づくり

1. 農事組合法人にここにこファーム新庄(松江市)

【設立】R2年2月大規模区画ほ場整備を契機に「農事組合法人にここにこファーム新庄」を立ち上げ、地区全体での営農を開始。

【組合員】98人

【経営面積】R4年時点23.8ha(整備完了後46ha)

【経営内容】水稲17.8ha、タマネギ2.6ha、柿0.7ha



新庄地区農地中間管理機構関連農地整備事業(H30年～R7年予定)

2. 取組の経過及び概要

米価の低迷が続く中、安定した収益を確保するため、高収益作物としてタマネギ栽培に取り組むことを決断し、法人内に「たまぷろチーム」を結成。

整備完了後には41haの水稲栽培に加え、5haのタマネギ栽培を目指して、現在2.3haまで作付面積を拡大中。

たまぷろチーム(R2年4月発足)

目標:「松江地区におけるタマネギ栽培の中核となる」

〈チームの特徴〉

- ・園芸作物の栽培経験者がチームを牽引
 - ・女性が多数参画し、調製・育苗等の作業を担当
- 〈活動内容〉

- ①タマネギ栽培をしている県内農業法人へ視察
- ②栽培知識を学ぶ「たまぷろ研修会」を開催
- ③試験栽培で技術習得⇒本格栽培へ
- ④補助事業等を活用した設備投資の検討
- ⑤関係機関へのサポート依頼⇒チーム新庄たまねぎ



たまぷろ研修会とチームを率いる津森隆利営農部長

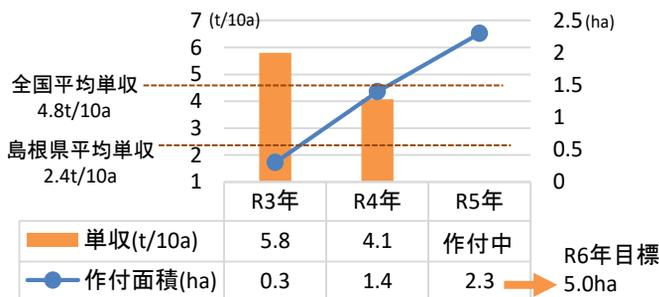
3. 取組の成果

(1) 中規模機械化体系の確立

「水田園芸拠点づくり事業」等を活用し、3～5haの栽培に対応できる機械化体系を整備。



(2) 全国平均並の収量確保と面積拡大



初作から県平均単収(2.4t/10a)を大きく上回る収量を確保でき、計画より早いペースで面積拡大中。

初めてのタマネギ大規模栽培で苦労は多かったですが、営農部長率いるたまぷろメンバーや組合女性部の活躍で目標の収量を確保できました。引き続き5haまでの拡大に向けて取り組んでいきます。



津森邦夫 代表理事組合長

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 目標面積5haの達成に向けて、早生・中生・中晩生品種で作期分散を図り、最大限機械を活用することで、収益性を向上。
- (2) 病害や雑草発生による収量減や草抜き等の労力負担が課題であるため、県・JA作成の防除暦に沿って対策を強化し、安定した収量確保を目指す。
- (3) 今後、他のほ場整備実施地区での取組に波及させることが必要。